大阪公立大学
Osaka Metropolitan University
学術情報リポジトリ

「張さんの思い出」　言語情報スタッフからのメッセージ

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-04-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10466/00017670

「張さんの思い出」　言語情報スタッフからのメッセージ

張先生の思い出

髙木　佐知子

張先生には，大阪府立大学総合科学部の時から，ずっとお世話になってきました。時が移り，学部は人間社会学部，大学院は人間社会学研究科となり，さらに，現在（2021年度）では人間社会システム科学研究科と，組織は変化しましたが，張先生とはずっと同じグループの一員として仕事をさせていただきました。このように大学で身近に接している私にとって，張先生には，いつも多くの学生の研究指導をなさっている印象が強くあります。演習室や研究室の閉まったドア越しに，張先生の伸びやかなバリトンが響き渡っているのをこれまで何度も耳にしました。張先生の美声が運ぶものは，日本語教育学や日本語学の知見はもちろんのこと，学生の研究に対するアドバイスやコメント，そして温かい叱咤激励など，学生の研究活動にとって必要不可欠なものばかりでした。そのことをより強く私が認識したのは，修士論文の口頭試問の場です。そこでは，張先生がいかに大学院生を優しく，時には厳しく励まし，研究を導いてきたのか，その結果，彼らがどのように研究を結実させたかを感じ取ることができました。

張先生，長い間本当にお疲れさまでした。そして大変お世話になり，ありがとうございました。これからも，ますますご研究が発展することをお祈り申し上げます。

（大阪府立大学教授）

Dear Professor Zhang,

Congratulations on your retirement and best wishes for your future. I have enjoyed working with you for the past nearly twenty years, and I have always appreciated the interest that you showed in my research and teaching.

You will be missed by all of us at Osaka Prefecture University, especially for your hard work in promoting the university's graduate program and for attracting such wonderful students. Thank you for recommending your students to my course. I really enjoyed the opportunity to teach SFL to them over the past six years. You were a wonderful mentor in guiding your students to complete their post-graduate studies.

You certainly deserve your retirement!

While I am saddened to see you go, I am confident that you will find the same success and happiness in retirement that you experienced during your time at Osaka Prefecture University. I know that you will continue with your own research into language and linguistics, and I wish you the best in your future research.

I hope that we can say in touch.

Best wishes,
Anne

（徳永アン　大阪府立大学教授）

張さんの思い出

中村　直子

張さんとは，大学の様々な仕事で長らくご一緒してきましたが，一番多くの関わりを持ったのは，おそらくこの紀要の編集委員としてでしょう。精力的に原稿を書いてくださるのはありがたく，また一方で，原稿提出後に何度も書式を直していただくことがありました。「白黒印刷になりますが，この図はカラーで出してよいでしょうか？」「フォントの統一をお願いします」「執筆要項の書式に合わせてください」編集の仕事をしていると，いやでも細かいところが目に付くものです。色々細かいことを言う私に，張さんは「私にとってはそれはどうでもいいことです」ときっぱりおっしゃったこともありました。まさにドイツ語で言うところの“Das ist egal.（どっちでもいいよ）”これを言うときのドイツ人は，たいてい両手のひらを上に向けて肩をすくめながら言い，「それは，わざわざあっちかこっちか決めなくていいでしょ」というニュアンスのあることばです。分かるなあと思う一方で，事務的には書式は揃えねばならず，心を鬼にして細かくチェックしたものです。こんな些細な例で２つの国の文化を対比していいものではないでしょうが，私はずっと「大陸の風だなあ」と思っていました。

この紀要「言語文化学研究」の言語情報編に限ると，これが初の定年退職記念号となるのが張さんというのも，今までの大きなご貢献によるものでしょう。今後とも変わらぬご活躍とご健勝をお祈りしています。

（大阪府立大学准教授）

張麟声さんとのこと

西尾　純二

張教授は，2004年に，大阪府立大学総合科学部の総合言語文化学科に教授として着任された。その時，私は既に同学科に着任していたが，張教授との関わりは，さらに古くにさかのぼる。

張教授とは，大阪大学の大学院時代から先輩・後輩の関係であった。私が大学院の博士前期課程に入学した頃には，張教授は，博士後期課程の大学院学生として在籍しておられたが，その前に，中国の大学で教鞭をとっておられ，日本への留学も２度目であったと伺っている。母国での職と地位がありながらも，研究の深化を志して再度大学院に入学する研究への姿勢に，大きな刺激を受けたものであった。

日本語文法を研究する，他の大学院学生の仲間たちとの間に垣根を作る様子もなく，にこやかに豪快な話しぶりで議論をしておられた。関心のある学問領域には，経歴や立場などに関わらず，問題を共有して議論することを純粋に楽しんでおられるように拝見していた。同じ講座ながら研究室違いであったが，社会言語学を志す博士前期課程の学生であった私にも，何度か長時間にわたって話し相手になっていただいた。

張教授は，1997年に「現代日本語の受動文についての記述的研究」で博士の学位を取得され，日本の他大学に職を得られた。私はその後，博士後期課程，同講座助手をへて，2002年に大阪府立大学に着任したが，張教授とは疎遠になっていた。それが，2004年４月，張教授と私は，大阪府立大学で突如として同僚となった。当時，専任講師であった私は，張教授の人事プロセスには全く関与していなかったので，大変に驚き，嬉しく思ったことであった。

同僚となると，学生同士の頃とは違い，多くの実務的な問題を共有することになった。相変わらず，にこやかで豪快な話しぶりで，話す内容は，大学での教育や諸事務に関わるミスの許されないことが多く

なった。張教授は，学生の対応やの業務の進め方について，私立大学の前任校や母国でのご経験に基づく自説を開陳されることが多かった。それらのことについて，私と，2012年３月まで在職された野田尚史教授と３人で，何度も何度も長文のメールを交わし，深夜に及んで議論し合ったことは，今でも鮮明な記憶である。

いっぽう，個人で推進されたご研究については，在職中，大きく展開された。日本語教育学の分野では「対照研究，誤用観察，検証調査」の三位一体の研究モデルを提唱された。また，「中国語話者のための日本語教育研究会」を立ち上げられ，その運営を軌道に乗せられた。さらには，アジア全域に分布する諸言語を対象とする言語類型論にも着手されていく。そして，これらの研究に共鳴する多くの大学院生を集めた。この点，特筆の必要性を疑うことはないが，長い期間，張教授は言語文化学専攻・言語文化学分野の大学院教育を一手に引き受けたと言っても過言でない貢献をしてくださっている。

同僚の中では，研究分野が近いこともあったし，研究室が隣であったこともあって，私は大学内では，張教授と最も多く研究について語りあった。大学院生の頃から，楽し気に研究について語られる姿は，未だ微塵も変わらぬと感じる。大学運営の落ち着きが加速度的になくなっていくなか，そのような貴重な時間は奪われていく一方だが，張教授は，同僚の中でも，最も「研究者としての同僚」であった。研究者として議論していく中で，私の研究に対する具体的な期待も，何度もお話しくださった。語用論的な現象を素材にした言語教育の教材開発についての展望を語ってくださったのであるが，賛同することはできないままであった。

張教授と私との議論は，いつもどちらかに迎合するようなものではなく，時には感情を抑えきれず，張教授の研究室で廊下にまで聞こえたであろう大声をあげたこともあった。年長の先輩に対して，甚だ無礼であったと悔やむばかりであるが，お互いに，胸襟を開いて話し合えたということである。

在職18年の間，そのような胸襟を開いてお話しできる存在でいてい

ただいた。公私にわたって様々な思考・感情を共有していただいた。ご退職を前に，一言では言い表せない様々な思いが渦巻く。張教授と私との間にある思いは，他の方々とはそう容易に共有できないだろう。そのようなわけで，この文章を終えるにあたって，張さんとお呼びすることをお許しいただき，張さんに，長きにわたって言語文化学専攻・分野を支えていただいたことに，慰労の念と感謝の意を表したい。

（大阪府立大学教授）

超美声の張麟声

宮畑　一範

張さんとのお付き合いも随分長くなりました。初対面はまだ総科一号館が健在だったころです。とにかく大きな存在感が第一印象でした。大柄な体格が迫力じゅうぶん。強面の太い眉と大きな目が圧を感じさせる。ギロリと睨みをきかせる，と表現したほうがわかりやすいかも。そして，重低音で響く声は波動砲のごとし。このトーンで本気とも冗談ともつきかねる微妙な一言が発せられるんですね。そのあと，まさに破顔してにやっ。この落差は強烈に心に刻みこまれました。

張さんの声といえば，研究室で（教室ではないのでたぶんそう大きな声ではないはずなのに）指導されている声が，閉めたドアから漏れ聞こえ――というレベルではありません。部屋の前どころか，10部屋近く離れた廊下でもはっきりと聞きとれるくらい。

これが教室での講義ともなればもっとすごい。わたしも（学生時代は発声練習をちゃんとやっていたので）声がとおることでは自信がありましたが，張さんの声はとおるだけでなく津波のようにどどぉーっと押し寄せる感じ。地声なのにスピーカーにバズーカウーファーをプラスしたかのように教室の空気全体が振動するんです。窓ガラスもビリビリと震えるくらいに。

そういえば，新型コロナが蔓延するずーっとまえ，まだ自由に宴会などができたころの話です。同僚10名くらいで個室で宴もたけなわと盛りあがっていたとき，お手洗いに立ったひとりが戻ってきたところ，障子越しに聞こえるのが張さんとわたしの二人の声だけで，ほかのみんなはもうさきに帰ってしまったのか，と思われてしまったこともありました。

どれもこれも他愛もないエピソードですが，いまとなっては懐かしい思い出です。いつまでもお元気で，そのお声と同じく，超弩級のパワーでご研究に邁進してください。

（大阪府立大学准教授）

張麟声先生の思い出

森田　耕平

私は大阪府立大学に2021年４月に着任し，張麟声先生とは着任後に初めて直接お話しすることとなりました。しかし，同じ大阪大学の文学研究科で日本語学を学んだという共通点もあり，まるで長年にわたってご指導をいただいた先輩（あるいは先生）であるかのように，研究に関して熱心かつ親しいお言葉をいただきました。そのような浅からぬご縁もあり，ここに先生との思い出を記させていただく次第です。

私が張先生に初めてお目にかかったのは，今からおよそ10年前に阪大で行なわれた研究会で，張先生は存在動詞の文法化に関して言語類型論的な見地からの発表をなされていました。当時，私は大学院の授業でWALS（The World Atlas of Language Structures）を購読していましたが，その世界の諸言語の文法構造を見渡すスケールの大きさに魅かれるとともに，日本語に関する議論には物足りなさも感じていました。そのような折に，先生の言語類型論的な研究の一端に触れ，日本語を含むアジアの諸言語を専門とする立場から，積極的にその知見を発信されている研究者が身近にいるのだと，驚きとともに感銘を受けました。

張先生の研究に対する情熱と一貫性，視野の広さには，着任後，近年の言語類型論に関する一連の業績を拝見し，再び驚くことになりました。それらはご退職を区切りに中断されるようなものではなく，むしろ今後ますます発展していかれるものと存じます。これからも研究の第一線に立ち続ける先生のご健康とご活躍を，心から願っております。

（大阪府立大学准教授）

Dear Professor Zhang,

Many congratulations on your retirement. I was lucky to working with you. You have always been an enthusiastic teacher, creative researcher, and empathetic leader. Your passion for research and teaching will be remembered by all of us.

Also, thank you for always supporting our department with your positive energy and constant encouragement. Your hard work and dedication to the department are greatly appreciated. I hope you could enjoy your life after retirement as much as we have enjoyed the time working with you.

You will be best remembered as a great motivator, the one who brings out the best in others. I wish you the best in your future endeavors.

Best Regards,
Jinsuk

（楊眞淑　大阪府立大学准教授）